

児童の実態と課題および具体的方策

本年度全国学力・学習状況調査結果より

(1) 本校の傾向と課題

4月当初の6年生からは、算数の学習に関して、学習することや家庭学習の必要感を感じてはいるが、「算数の学習があまり好きではない」、「授業がおもしろいとは感じていない」というデータが示されていた。その結果を真摯に受け止めて、「考える楽しさ・できる嬉しさ・わかる喜び」を実感できる学習を工夫していくことを第一義として取り組んでいくものとする。その原因を解き明かし、改善すべき点を分析し、探っていく。

分析結果、6年生は、「基礎・基本」の力は概ねついてきていると判断できるが、「活用力」に関してはまだまだ生かせているとは言えない。今後は、計算練習と平行して、多くのパターンの問題に触れさせ、解き方の豊かさを身をもって体験させることが求められる。問題の読解に関して、曖昧な判断ではなく、算数的な明確な「読解力」をつけるために、事象や場面を具体的にイメージ（絵、図、数直線など）させてから立式に取り組むことで、ずいぶんミスも防げるし、たくさんの表や式、グラフから必要な情報を取り出して考察する経験を十分にさせたりする事で思考力がついてくると思われる。また、思いつきや直感で答えるのではなく、「～の理由で〇〇になる」「もし～ならば、〇〇になるはずだ」などと論理的に筋道を立てて考えていったり、確実な根拠を挙げて理由を述べたり、算数用語を的確に使うよう常に意識付けさせていかねばならない。

今回の指導要領改訂では、「言葉の力」が「確かな学力」を育むための最大の武器となるとしている。「言葉」をコミュニケーション能力などの伝えあいとだけとらえるのではなく、その前に「認識の力」「思考の力」「判断の力」としてとらえていかねばならない。算数でも、キーワードの理解を中心に、十分に「言葉」にこだわり、教科なりのものの考え方や表現ができるよう指導の工夫を重ねていかねばならない。

(2) 今後の具体的方策

本校の課題	課題に対する具体的方策
①量感が不足している （「量と測定」領域）	・ 具体的操作や作業を算数的活動の一つとして、数多く組み込み体験させる。 ・ 具体物や半具体物などを動かしながら、目、手などの感覚（五感）を使った算数に取り組む。
②問題文の数字しか残らず、題意が読み取れない	・ 問題を解くポイントを捉えさせる。 「問われていることは？」「わかる数字は？」「〇〇算とわかるキーワードは？」等、~~~~~を引いたり、 で囲んだりする習慣をつける。 ・ イメージ化させるために図示させる。 ・ 生活の中の一場面を取り上げ、子どもがイメージできる問題作りに取り組む。

③説明の仕方が身についていない 語彙が貧弱で内容が豊かに広がっていかない	・根拠を持った書き方話し方「～だから～です」が定着するよう、方法が分からない子には、キーワードや手だてを示しながら、それを使って理由付けができるようさせていく。 ・説明の方法のアイテム（式・言葉・図・数直線）を常に提示し、意識させ、幅広く挑戦させていく。 ・「言葉の力」を意識させ、言葉の耕しに気を配り、豊かな発想を生み出し、生活経験として活用させていく。 （他教科とのリンクも念頭に）
④算数用語がうまく使えない	・「これ」「この」という指示語の示す内容を明確に表現するよう、算数用語を何度も復唱させ身に付けさせる。 ・算数用語を使ったまとめやふりかえりをさせる。
⑤学びに対して指示待ち姿勢が見られる	・言われたことしかできないのではなく、既習を使って、自ら見いだす体験を数多く組んでいく。常に先の見通しを持ち、考えながら進めていくようにさせていく。

（児童質問紙より・・・児童の勉強や生活の様子）

本校の課題	課題に対する具体的方策
①進んでチャレンジしようという 力や自分で考え判断し、よりよい行動に繋げようとする力が弱い	・課題に向かって失敗を恐れずにチャレンジしようという意欲を高める場を設定していく。 行事への取り組み 縦割り活動 委員会活動 など
②受け身的なところが多い	・低学年から、個を引っ張り上げたり、個の能力に応じて認め、表現させていく場を設定していく。